

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

主 論 文 の 要 旨

論文題目 ベトナム語の名詞修飾表現

氏 名 NGUYEN Hanh Thi Hong

論 文 内 容 の 要 旨

名詞修飾表現（以下、NVP と呼ぶ）に関するベトナム語の先行研究が少ない中で、本研究は、分析に役立つ日本語の理論を援用し、統語・意味の両方を視野に入れてベトナム語の NVP を考察した。収集した用例を記述・分類し、ベトナム語名詞修飾の傾向を観察することが出来た。また、日本語の名詞修飾との比較によって、両言語の構造や意味上での類似点と相違点も明らかになった。以下に、本研究の成果をまとめる。

第 1 章では、N が VP の主語である場合の特徴について論じた。N が VP の主語であるため、連体形式が連用形式とほぼ同一となり、VP と N を結ぶ関係詞なしで文が成立する。また、VP 内の動詞はテンス・アスペクトや非独立動詞、頻度・程度副詞などによく共起し、N の何らかの属性を表すことが分かった。

第 2 章では、N が VP の主語ではない他の文法役割を担う例を取り上げた。関係詞の出現が任意であるが、mà の生起条件に影響する要素は、主節内の NVP の位置、二重修飾、VP への文修飾副詞の出現、談話上の各要素など様々なものがある。関係詞 mà が現れる際は、N に焦点を当てる、または N を排他限定するという意味用法が生まれる。また、単位名詞に置き換える NVP がこの章の典型的な形式である。本研究が提唱した「短縮形」では、関係詞があまり出現しないということも明らかになった。

第 3 章では、ベトナム語の外の関係の NVP を取り上げたが、内容補充については、関係詞があまり生起しないことが特徴である。N が不定の名詞で、NVP には定の主語やアスペクトが現れない場合が多いが、特定の主語やアスペクトによって、物事を具

体的に限定する内容補充の例もある。VPの内容を強調したい場合、関係詞の代わりに、繫詞 *là*、数量詞 *một* が共起する。相対的補充については、NとVPが直接結び付くものもあれば、その間に語を沿えなければならないものもある。残りの外の関係タイプには、NがVPの抽象的な場所のものとVPの主語がNの所有物のものがあり、NとVPが修飾関係にあることを示すこれまでの関係詞 *mà* が、Nを主題化するという異なった機能を持っていることが分かった。内容補充と相対的補充はNに情報を付加する意味用法を有するが、残りの外の関係タイプはNの属性を表す。

第4章では、これまでの章で論じたベトナム語の三つのグループを、意味的、統語的に日本語と比較した。そして、実際の使用状況から、両言語のNVP全体の意味的、統語的機能の共通点と相違点を指摘した。統語上の面では、日本語のNVPはベトナム語ほどは拘束されず、様々なNVPが形成されやすい。特に「短路」や「相対補充タイプ」はNとVPの結び付きは、語用論上で話し手と聞き手の間で通じあえばNVPが成立する。日本語ではVPが一時的な動作動詞と共起することができ、「対比、継起、原因」などの文前後の会話展開の機能があるが、ベトナム語ではしばしばNの何らかの属性を表さなければならないという制約が働く。ただし、属性や情報付加等の意味用法を判断するのに、両言語には文脈が必要である。NVPだけでは、時には何の意味用法であるかは簡単に決められないような各意味用法の間には曖昧さが各意味用法の間にはある。





